

栗原市病院事業経営健全化計画

平成 29 年度

— 重点取組事項等に対する点検・評価報告書 —

栗原市立病院経営評価委員会

【 所管：栗原市病院事業 医療局医療管理課 】

目 次

平成29年度重点取組事項等に対する点検・評価報告書

1 栗原中央病院の取組みに対する意見等	-----	1～2
2 若柳病院の取組みに対する意見等	-----	2
3 栗駒病院の取組みに対する意見等	-----	2～3
4 総括	-----	3

資料1 各委員からの意見、要望、提言	-----	4～5
--------------------	-------	-----

資料2 平成29年度重点取組事項に係る自己点検・評価

■ 栗原中央病院	-----	6～7
■ 若柳病院	-----	8～9
■ 栗駒病院	-----	10～11

《自己点検・評価の記載項目》

- 1 病院の果たすべき役割（経営方針）
- 2 取組実績に対する点検
 - (1) 医療機能確保の視点
 - (2) 財務の視点
 - (3) 業務プロセスの視点
 - (4) 学習と成長の視点
- 3 収支計画及び決算（収益的収支）
- 4 主な経営指標及び実績
- 5 自己評価（病院総括）

[添付資料]

別紙1 市立3病院収支計画及び決算	-----	12～14
別紙2 市立3病院経営指標	-----	15～17

資料3 栗原市立病院経営評価委員会委員	-----	18
---------------------	-------	----

資料4 栗原市立病院経営評価委員会設置要綱	-----	19
-----------------------	-------	----

栗原市病院事業 第三次経営健全化計画
平成29年度重点取組事項等に対する点検・評価報告書

栗原市病院事業から提出された「平成29年度重点取組事項等に係る自己点検・評価」及び「決算関係資料」をもとに、第三次経営健全化計画における市立3病院の取組実績について点検を行った結果は、次のとおりである。

平成30年10月24日

栗原市立病院経営評価委員会
委員長 平川 秀紀

1 栗原中央病院の取り組みに対する意見等

平成29年4月から循環器内科を本格的に稼働し、入院で延べ8,205人、外来で延べ6,745人の診療を行った。

循環器内科を標榜したことで、栗原中央病院の急性期機能が強化され、市民への安全で安心な質の高い医療提供につながり、また、今後の経営改善の推進においても良い影響を与えることと思われる。ただし、非常勤医師の応援があるとは言え、常勤医師2名体制で24時間体制をとることは、かなりのオーバーワークであり、今後の医師招へい活動により、安定的な医療体制を提供できるよう体制の整備が望まれる。

第三次経営健全化計画における病床利用率の目標値は73.3%で、平成24年度以降達成していない70%以上を目標として職員一丸となって努力してきたが、前年度比で3ポイント増の66.1%に留まった。しかしながら、一般病床の利用率は68.3%と平成27年度以降は確実に上昇してきており、少しずつではあるが、医療機能を充実してきた成果が表れている。

一般病床の平均在院日数については、ベッドコントロールや循環器内科の患者回転の速さもあり、前年度の17.5日から14.9日に大幅に短縮されている。このことは、包括医療費支払い制度（DPC）による効率的な医療提供と患者の早期社会復帰を促進しているものであり、急性期医療を担う病院としての使命を果たしていると言える。

医業収益に対する材料費の割合では、前年度比で2.3ポイント増の19.1%であり、循環器内科に使用する診療材料費の増加が要因とみられるが、経営面における循環器内科の効果を引き出すためには、診療材料費の抑制がポイントとなってくる。

地域医療機関との連携では、在宅療養後方支援病院として111人の患者登録を行っており、在宅診療に取り組まれている市内の開業医の安心を担保している。

医療の高度化、専門分化が進む中で、医療の質を維持・向上させるためには、人材確保と医療機器整備が必要であり、そのためには費用がかかることになるが、第三次経営健全化計画に掲げている病床利用率、経常収支比率の目標値を達成できるよう益々の努力を期待したい。

2 若柳病院の取り組みに対する意見等

平成28年度は経常収支比率が103.6%の黒字化となり、医療スタッフの頑張りに敬意を表するものであったが、常勤医師の高齢化や医師不足の問題は解消されていない。

平成29年度は、入退院支援体制強化のための地域医療連携室の立ち上げや、公立病院の責務として重症心身障害児者の医療型短期入所に取り組んだことは評価できる。

医師体制は、内科医1人増の常勤医師5人体制となったものの、時間外救急搬送による入院患者の減少などが大きな要因となり、医業収益は前年度と比較し入院・外来ともに減収となり、病床利用率では4.2ポイント、経常収支比率では5.6ポイント下回り、前年度の純利益から3千9百万円の純損失に転じる結果となった。

平成30年度は、内科医1人減、整形外科医が常勤から非常勤となり、常勤医師が3人体制となっている。市病院事業でも医師招へいに努力はされているようであるが、全国的に地方への医師招へいは非常に厳しいと言える。今後も、地域密着型慢性期医療の基幹病院として、継続した医療を提供するためには、さらなる経営改善に着手するとともに、医師をはじめとするスタッフの負担軽減を図る必要がある。

3 栗駒病院の取り組みに対する意見等

平成28年度末に10年間勤務した医師が退職したものの、新しい医師を招へいし、常勤医師は3人体制を維持しているが、患者数を抑えた診療体制が続いており、病床利用率は74.7%の目標に対し62.9%、経常収支比率は90.8%の目標に対し85.1%となり、純損失額は1億3千9百万円となった。

医療スタッフの高齢化により、人件費が高い割合となっていることも要因ではあるものの、病床数75床の栗駒病院が、病床数300床の栗原中央病院と同規模の損失を発生することは、市病院事業の経営に大きな影響を与えている。

今後は、地域のさらなる人口減少が進んでいくことが予想されるため、栗原中央病院と

の機能分担を明確化し、病床規模の見直しなど、早期に抜本的な経営改革を図らなければならないと考える。

4 総括

限られたスタッフの中で、地域医療に取り組まれている実績は十分評価できる。しかし、自治体病院として維持・継続していくためには経営管理の視点が重要である。

平成29年度の市一般会計からの繰出金は、一般会計の歳出に占める割合の4%を超えていることから、市の財政運営に与える影響も大きくなってきている。町村合併特例による交付税の特例期間を終え、普通交付税が減額されていく市の財政状況を考慮した場合、今後も同じような繰出金を見込むことは難しくなってくる。

さらに、平成30年4月には診療報酬と介護報酬の同時改定が行われ、また、平成31年10月には消費税が10%に増税される見込みであり、病院経営を取り巻く環境は益々厳しくなっていくことが予想される。

平成28年度の点検評価の総括でも指摘したが、医療機能を維持していくためには、市立3病院の病床数495床が本当に必要であるかを検証し、全体最適なダウンサイジングを図るべきである。

栗原中央病院は、地域の中核病院として高度医療や救急医療などを担い、若柳病院及び栗駒病院は慢性期医療や在宅医療などを担うとした医療機能を踏まえれば、若柳病院及び栗駒病院は、病床数を現在の医師体制で対応可能な範囲に減床を行い、栗原中央病院では現状を維持しながら、急性期患者の受け入れを行うなどの分担と連携を明確にすべきである。

各委員からの意見、要望、提言

- 栗原中央病院は、循環器内科が本格的に稼働し、患者数が増加し、なによりも地域住民の安心に繋がる重要な出来事である。但し、循環器内科の常勤医師2人体制で24時間診療対応するのは厳しいと思われる。

若柳病院の常勤医師は、5人体制で推移したが、時間外の救急患者を1,600人以上対応していることが大変なことである。平成30年度は常勤医師が3人体制となることが心配である。

栗駒病院は、医師が少ない中で頑張っているものの、患者が増える要素が少ないことと、人件費比率が高いため、黒字経営に持っていくのは難しい。

- 栗原中央病院の病床利用率は、70%以下の状態が続く場合、ダウンサイジングを考えなければならないと考える。

若柳病院は、医師の高齢化の問題もあり、在宅医療を行うことも難しくなってくると思われるが、栗原の医療圏は栗原中央病院を中心に考えなければならない。

栗駒病院は、診療圏の人口減少や高齢化などから、介護医療院へ向けて体制を整備しなければいけない。

- 栗原中央病院は、平成31年4月の県立循環器・呼吸器病センターの機能移管に向けて、経営指標も改善傾向であり、今後一般病床の病床利用率70%以上をぜひとも達成してほしい。

若柳病院は、これまでの経営指標において順調に推移してきたが、平成30年度は常勤医師数が減少するため、経営の悪化につながらないような対応が必要である。

栗駒病院は、年々経営指標全般の低下が続いており、抜本的な対応も視野に入れなければならない。

- 栗原中央病院は、経常収支比率、職員給与費比率、医業収支比率については、他の自治体病院と比較して平均的な数字であるが、紹介率、逆紹介率は少し低いので、検討課題であると思う。自治体病院は不採算医療を担いながら、経営も良好にしなければならないという相矛盾するところに難しさがある。

若柳病院は、平成28年度は純利益が6千2百万円であったが、平成29年度は3千8百万円の純損失となり、環境の悪化などによるやむを得ない事情で減少している。

栗駒病院は、平成28年度が1億1千4百万円、平成29年度が1億3千9百万円の純損失であり、構造的な改革が必要と考える。

- 栗原中央病院は、費用が増加しており、現在の常勤職員数や委託職員数が適正であるかを再度検証すべきである。

若柳病院は、地域医療連携室を立ち上げ増収に繋がったことや、経費の削減を図り努力していることは評価できる。

栗駒病院は、医師の出入りがあり安定しなかったが、良い医療を提供するというイメージ作りも大切ではないかと考える。

- 栗原中央病院は、循環器内科が増えたことで増収につながったものの、人件費、診療材料費が増えており、増収分が消えている。今後、ベンチマークなどを活用して、診療材料を安く買えるように努力すべきである。

- 栗原中央病院は一般病棟入院基本料の7対1を維持してきたが、平成30年4月の診療報酬改定により、入院基本料1から7までに改正された。入院基本料1と2のDPC係数の差は小さいので、今後の一般病棟の運営において、他の加算も考慮して検討すべきである。

- 現在の国の政策では、医師の偏在問題は解決できない。若柳病院は、医師が増えない前提で運営を考慮しないと皆疲弊してしまう恐れがある。

- 市内の開業医の平均年齢は、60歳以上になってきている。あと10年すると、開業医の数も減って、栗原の医療圏の状況は大変厳しくなってくる。

東北医科薬科大学の学生が総合医になって、開業医を継いでもらうようにならないとどんどん減ってしまう。

- 市立3病院の機能分担も含め、市の地域包括ケアシステムをどのように作っていくか、今後の動向を注視していきたい。

平成29年度重点取組事項に係る自己点検・評価

病院名	栗原中央病院
-----	--------

1 病院の果たすべき役割（経営方針）

<p>地域の中核病院として、高度医療や二次救急医療の役割を担い、急性期医療を中心に小児から成人・高齢者に至るまで、幅広い年代層への医療の提供、また、栗原地域の災害時における災害拠点病院としての機能、さらに、基幹型臨床研修指定病院としての役割を担っています。</p> <p>また、市民が必要な時に“安全”で“安心”できる医療を提供できるように努めるとともに、市内一次医療機関や近隣医療機関との病病連携・病診連携を図り、市民に質の高い適切な医療を安定的に提供します。</p>

2 取組実績に対する点検

(1) 医療機能確保の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
地域医療機関との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 在宅療養後方支援病院(H26.7～) H29年度末登録患者数 111人 H29在宅患者緊急入院診療加算算定患者数 23人 地域連携のつどい「よらいん」4回 456人 研修会、講演会(各1回)計 318人 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関の当院に対するニーズの把握及び地域への情報発信(広報誌及び出前講座等の充実)
医療スタッフの招へい	<ul style="list-style-type: none"> 循環器内科医師2人を招へいしたが、H29年度の常勤医師は25人で増減なし(研修医は1人減) 看護職員4人(非常勤職員1名)、薬剤師・臨床検査技師各3人、臨床工学技士2人の増員となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な医師の招へい活動 将来を見据えた中長期的な職員の採用と育成 宮城県立循環器・呼吸器病センターからの機能移管に伴う職員受入
急性期医療及び回復期医療の提供	<ul style="list-style-type: none"> H29.4月から循環器内科を開設し、心臓血管リハも開始した 地域包括ケア病棟におけるレスパイト入院の受入 5人 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機器の整備・充実 救急医療体制の充実

(2) 財務の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
収入増加・確保対策	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア病棟の開設(H27.9～) 各種指導管理料増収 H28: 28,449千円 H29: 9,893千円 紹介患者増加のための市内外医療機関への訪問(特に循環器) 	<ul style="list-style-type: none"> 紹介患者の受入やベッドコントロール会議の活用による利用率向上 指導料等算定状況チェックの強化 定期的な他医療機関訪問実施
経費削減・抑制対策	<ul style="list-style-type: none"> 委託料等削減 H28: △30,933千円 H29: △3,316千円 診療材料・医薬品削減 H28: △6,765千円 H29: △2,216千円 	<ul style="list-style-type: none"> H30年度以降も継続して経費削減に取り組む

(3) 業務プロセスの視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
医療の標準化とチーム医療の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・クリニカルパスの推進 (利用率 H28:22.5%、H29:24.7%) ・NST に歯科医を招へいし活動 ・糖尿病チームを立ち上げ活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・クリニカルパス利用率 30%以上
医療の質と安全の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「医療の質の評価・公表等推進事業」 (全国自治体病院協議会) への参加 ・医療安全管理委員会等院内各種委員会活動を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィードバックデータの分析・活用による医療の質の向上 ・計画的、体系的な人材育成

(4) 学習と成長の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
職員のスキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の充実、専門医等の資格取得やスキルアップの支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的、体系的な人材育成

3 収支計画及び決算 (収益的収支)

(単位:千円)

区分	H27 年度		H28 年度		H29 年度	
	計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
医業収益	4,275,676	3,763,186	3,892,148	3,763,770	4,252,945	4,178,778
医業外収益	572,422	674,342	831,757	828,436	865,528	874,173
特別利益	0	0	0	0	0	0
合 計	4,848,098	4,437,528	4,723,905	4,592,206	5,118,473	5,052,951
医業費用	4,526,098	4,522,703	4,658,006	4,447,345	4,889,899	4,912,267
医業外費用	224,774	268,716	297,703	284,353	281,578	285,401
特別損失	1,200	492	10,463	10,463	1,100	7,998
合 計	4,752,072	4,791,911	4,966,172	4,742,161	5,172,577	5,205,666
当年度経常損益	97,226	△353,891	△231,804	△139,492	△53,004	△144,717
当年度純損益	96,026	△354,383	△242,267	△149,955	△54,104	△152,715

4 主な経営指標及び実績

(単位:%)

区分	H26 年度		H27 年度		H28 年度		H29 年度		
	計画値	実 績							
経常収支比率	101.1	92.3	102.2	92.6	95.3	97.1	99.0	97.2	
病床利用率	78.3	65.1	80.0	63.1	65.7	63.1	73.3	66.1	
内 訳	一般病床	78.1	64.4	80.0	64.2	67.2	66.3	74.0	68.3
	療養病床	80.0	69.3	80.0	57.4	58.0	47.1	70.0	55.1
職員給与費比率	50.5	56.3	50.1	56.5	56.2	56.1	54.9	54.1	
医業収支比率	93.4	83.2	94.5	83.2	83.6	84.6	87.0	85.1	

5 自己評価 (病院総括)

平成 29 年度は循環器内科を開設し、病床利用率 70%以上を目標として職員一丸となって努力したが、他科の常勤医師の退職や平均在院日数の短縮等により病床利用率は前年度比 3%増の 66.1%となった。循環器内科の開設等に伴い患者数と診療単価が増となり、入院収益は 352,082 千円の増、外来収益は 45,219 千円の増となった。支出面では、人件費と診療材料費の増加額 322,374 千円に加え、循環器内科の開設に伴う医療機器整備等により減価償却費、固定資産除却費、雑支出 (控除対象外消費税等) で 61,728 千円が増したため、当年度純損失は 152,715 千円となり、前年度比で 2,760 千円の損失の増となった。

平成29年度重点取組事項に係る自己点検・評価

病院名	若柳病院
-----	------

1 病院の果たすべき役割（経営方針）

「生活医療圏」の中での医療の提供、そのための「地域密着型慢性期医療」の基幹病院として、また、在宅医療・訪問看護・介護支援の拠点として、中核病院・地域診療所等との連携を図りながら、初期診療における総合的な判断と診療を行い、救急については一次救急はもとより、可能な限りの二次救急を行い、地域住民に信頼される病院を目指します。

2 取組実績に対する点検

(1) 医療機能確保の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
地域医療機関との連携強化	平成29年4月から地域医療連携室を立ち上げ、稼動を開始した。入退院支援に係った実績は995人であった。	地域医療連携室の専任職員は非常勤の社会福祉士1人のみで、看護師は兼務のため、充実させる必要がある。
医療スタッフの招へい	平成29年度は内科医師1人を招へいすることができたが、年度末に常勤医師2人（内科・整形外科）が退職したことにより、医師充足率は非常に厳しい状況となることが見込まれる。	常勤医師の高齢化が進行していることから、地域医療を担う若手・中堅医師の招へいによる、医師充足率の達成が課題である。また、医師の負担軽減のために、電子カルテ及び医療クラークの導入に向けた取組みを進める。

(2) 財務の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
収入増加・確保対策	地域医療連携室の立ち上げによる退院支援加算2による増収 680件 1,799千円	入院基本料10対1の施設基準要件が見直されたため、データ提出加算及び診療録管理体制加算の施設基準の届出に向けた準備。
経費削減・抑制対策	節電・節水による光熱水費の減 (年間462千円の減)	開院から13年目を迎え長期的に使用している医療機器の更新や施設設備の計画修繕が必要となっている。

(3) 業務プロセスの視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
地域医療研修受入施設として研修内容の充実を図る	平成29年度の研修受入実績 ・栗原中央病院研修医 2人 ・仙台医療センター研修医 4人 ・リハビリテーション科による研修学生 11人 ・中高生による看護師・栄養士体験学習 15人	訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、在宅患者訪問褥瘡管理などの研修内容の充実を図り、仙台医療センターや栗原中央病院等の研修医の受け入れを行い、また、専門学校の実習生、中高生の体験学習の受入も継続する。

(4) 学習と成長の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
専門性の向上（職員のレベルアップ）を図る。	医師学会出席延べ 5人 看護師研修会延べ 158人 ファーストレベル研修 1人 コメディカル研修会延べ 12人 院内研修会出席延べ 760人	今後も計画的に研修会に参加することにより、職員の専門性の向上とレベルアップを図る

3 収支計画及び決算（収益的収支）

（単位：千円）

区分	H27年度		H28年度		H29年度	
	計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
医業収益	1,561,714	1,437,764	1,512,744	1,527,712	1,554,601	1,474,355
医業外収益	168,634	197,226	284,636	286,350	267,227	270,165
特別利益	0	0	0	0	0	0
合 計	1,730,348	1,634,990	1,797,380	1,814,062	1,821,828	1,744,520
医業費用	1,628,511	1,614,313	1,695,687	1,645,023	1,721,139	1,677,100
医業外費用	96,870	110,343	111,821	105,540	108,177	103,319
特別損失	457	456	780	1,213	780	3,079
合 計	1,725,838	1,725,112	1,808,288	1,751,776	1,830,096	1,783,498
当年度経常損益	4,967	△89,666	△10,128	63,499	△7,488	△35,899
当年度純損益	4,510	△90,122	△10,908	62,286	△8,268	△38,978

4 主な経営指標及び実績

（単位：%）

	H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		
	計画値	実績	計画値	実績	計画値	実績	計画値	実績	
経常収支比率	100.1	90.8	100.3	94.8	99.4	103.6	99.6	98.0	
病床利用率	85.2	71.3	85.2	74.6	75.0	77.5	76.7	73.3	
内 訳	一般病床	83.3	67.1	83.3	74.9	71.1	74.6	73.3	70.5
	療養病床	90.7	83.9	90.7	73.5	86.7	86.1	86.7	81.7
職員給与費比率	52.0	60.7	52.0	57.3	55.8	54.6	55.7	58.3	
医業収支比率	95.8	84.9	95.9	89.1	89.2	92.9	90.3	87.9	

5 自己評価（病院総括）

平成29年度は常勤医師5人の体制でスタートしたが、年度末に常勤医師2人（内科・整形外科）が退職した。平成30年度は常勤医師3人体制となり、非常に厳しい状況となる。

平成29年度入院延患者数は前年度比1,820人の減で病床利用率は計画より3.4ポイント下回る73.3%となった。外来患者数でも前年度比1,456人の減となり、1日平均患者数で見ると入院が△5.0人（一般△3.7人、療養△1.3人）、外来は△6.7人（内科△4.3人、外科△1.7人、整形△0.7人）で外来患者数の減が入院患者数の減に連動して減少した。主な患者数減の要因は、時間外救急搬送による入院患者数が28年度318人に対し、29年度250人で△68人となっており、容態急変等による救急患者の減少が主な要因となっている。

平成30年度へ向けては、地域の強い要望のある重症心身障害児者の医療型短期入所に取組むとともに、業務改善・働き方改革委員会を定期的に開催し、電子カルテの導入、医療クラークの導入、診療録管理体制の整備等を行い、医師の負担軽減を図りつつ地域包括ケア病棟の導入へ向けての環境整備をすすめ、在宅医療・介護支援の機能の充実を目指す。

平成29年度重点取組事項に係る自己点検・評価

病院名	栗駒病院
-----	------

1 病院の果たすべき役割（経営方針）

地域に密着した「地域密着型慢性期医療」の基幹病院として、近隣の医療機関・保健福祉施設等との連携と機能分担を図り、良質な医療を提供し、地域住民の健康を守ることに全力を尽くし、信頼される病院を目指します。

また、「和顔愛語」「恕」の精神で多くの住民から愛される病院を目指します。

2 取組実績に対する点検

(1) 医療機能確保の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
地域医療機関や介護施設との連携強化	栗原中央病院との連携強化により紹介件数、逆紹介件数が増加した。 紹介件数 逆紹介件数 28年度 179件 90件 29年度 214件 111件 増減 +35件 +21件	今後も栗原中央病院や地域の開業医の先生方、介護施設等との連携を強化して行く。
医療スタッフの招へい	平成29年4月から外科医師1人を招へいすることができたが、常勤医師数は3人で増減なし。	今後も継続的な医師の招へい活動を行い、常勤医師の定年等に対応できるようにしたい。
地域のニーズに合った提供	介護型療養病床（28床）の年間延患者数が増加したことから、地域の介護者の負担軽減につながった。	市の高齢化率も高くなってきており、老老介護の軽減等地域のニーズに合わせた医療、介護を提供して行きたい。

(2) 財務の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
収入増加・確保対策	認知ケア加算の算定による増収 596千円 療養病棟環境加算の届出による増収 110千円	介護医療院への転換に向けた検討・準備。
経費削減・抑制対策	値引交渉強化による薬品費・診療材料費・消耗品費で1,232千円の節減	今後も費用の削減に取り組む。
	故障した蛍光灯のLED照明切替による電気料の節減（H28～）	今後は24時間点灯している部署の照明をLED照明に切替（スタッフステーション、警備室等）

(3) 業務プロセスの視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
医療安全の充実	リスクマネジメント委員会 12回 リスクカンファレンス 26回 医療機器安全管理委員会 12回 院内研修 58回、延べ 986人	今後も各種研修会の伝達研修や院内研修の充実を図り、医療事故防止に努める。

	院外研修 54回、延べ 127人	
地域医療研修及び中高生の体験学習受入れ	仙台医療センター研修医 2人 仙台第二高等学校生と懇談会 11人 栗駒中学校生の福祉体験学習 9人	今後も継続して研修の受入を実施する。

(4) 学習と成長の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
専門性の向上（職員のレベルアップ）を図る。	自治体病院学会での研究発表 2人 ファーストレベル研修 1人	今後も学会発表及び各種研修への参加を継続し、職員の専門性の向上とレベルアップを図る。

3 収支計画及び決算（収益的収支）

（単位：千円）

区分	H27年度		H28年度		H29年度	
	計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
医業収益	815,259	673,195	655,324	595,098	679,663	581,960
医業外収益	167,429	193,913	211,931	213,165	212,662	213,482
特別利益	0	0	0	0	0	0
合 計	982,688	867,108	867,255	808,263	892,325	795,442
医業費用	901,987	888,398	918,631	878,613	940,278	894,710
医業外費用	35,117	42,224	46,662	43,562	42,926	40,281
特別損失	67	397	850	344	850	124
合 計	937,171	931,019	966,143	922,519	984,054	935,115
当年度経常損益	45,584	△63,514	△98,038	△113,912	△90,879	△139,549
当年度純損益	45,517	△63,911	△98,888	△114,256	△91,729	△139,673

4 主な経営指標及び実績

（単位：％）

	H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		
	計画値	実績	計画値	実績	計画値	実績	計画値	実績	
経常収支比率	103.9	94.7	104.9	93.2	89.8	87.6	90.8	85.1	
病床利用率	86.1	76.6	86.1	73.7	70.7	63.2	74.7	62.9	
内訳	一般病床	88.4	71.2	88.4	72.2	68.9	58.0	71.1	53.9
	療養病床	82.7	84.7	82.7	75.9	73.3	70.9	80.0	76.3
職員給与費比率	61.8	69.4	61.8	71.3	77.4	81.0	76.1	81.4	
医業収支比率	89.6	77.9	90.4	75.8	71.3	67.7	72.3	65.0	

5 自己評価（病院総括）

平成29年度の延患者数は前年度と比較すると入院は89人の減、外来で1,741人の減という結果になった。患者数の減少により、医業収益は計画額と比較して97,703千円の減収、当年度純損失は139,673千円となり、前年度比25,417千円の損失増となった。損失増の主な要因は、10年間勤務した医師が前年度末をもって退職したこと、また、常勤医師が3人体制のため、患者数を抑えた診療体制が続いており、診療収入が伸び悩んでいることなどによるものである。地域の人口減少が進む中、地域に密着し信頼される医療機関として、また、地域で唯一の入院施設を持つ医療機関として、他の医療機関や介護施設等と連携し、地域密着型慢性期医療の基幹病院という役割を担っていきたい。

別紙1 市立3病院収支計画及び決算

1 栗原中央病院

(単位：千円)

区分	年度	H27年度		H28年度		H29年度	
		計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
1 医業収益		4,275,676	3,763,186	3,892,148	3,763,770	4,252,945	4,178,778
(1) 入院収益		3,003,213	2,490,014	2,625,387	2,540,943	2,937,326	2,893,026
(2) 外来収益		912,870	972,773	954,990	917,284	999,833	962,503
(3) その他医業収益		155,070	141,861	147,575	141,347	142,636	150,099
(4) 他会計負担金		204,523	158,538	164,196	164,196	173,150	173,150
2 医業費用		4,526,098	4,522,703	4,658,006	4,447,345	4,889,899	4,912,267
(1) 給与費		2,141,601	2,125,060	2,187,895	2,111,234	2,334,823	2,259,974
(2) 材料費		661,459	686,815	688,630	633,003	688,629	798,797
(3) 経費		1,319,110	1,277,168	1,354,417	1,277,949	1,383,238	1,378,997
(4) 減価償却費		386,749	416,848	398,603	398,600	444,272	430,060
(5) 資産減耗費		6,990	3,621	13,344	13,316	24,301	32,486
(6) 研究研修費		10,189	13,191	15,117	13,243	14,636	11,953
医業損失/医業利益		△250,422	△759,517	△765,858	△683,575	△636,954	△733,489
3 医業外収益		572,422	674,342	831,757	828,436	865,528	874,173
(1) 受取利息配当金		1,089	182	4,306	4,387	1	2,513
(2) 他会計補助金		181,163	248,820	408,577	408,577	407,828	407,828
(3) 補助金		26,681	32,775	26,282	26,195	23,275	25,369
(4) 負担金交付金		322,741	271,769	280,796	280,797	330,820	330,317
(5) 長期前受金戻入		0	82,878	79,252	79,252	78,408	78,409
(6) その他医業外収益		40,748	37,918	32,544	29,228	25,196	29,737
(7) 雑収益		0	0	0	0	0	0
4 医業外費用		224,774	268,716	297,703	284,353	281,578	285,401
(1) 支払利息及び企業債取扱諸費		148,603	149,738	141,493	141,382	134,162	132,964
(2) 繰延勘定償却		0	0	0	0	0	0
(3) 長期前払消費税償却		0	0	0	0	0	0
(4) 雑支出		76,171	118,978	156,210	142,971	147,416	152,437
経常利益/経常損失		97,226	△353,891	△231,804	△139,492	△53,004	△144,717
5 特別利益		0	0	0	0	0	0
(1) その他特別利益		0	0	0	0	0	0
6 特別損失		1,200	492	10,463	10,463	1,100	7,998
(1) 過年度損益修正損		1,000	451	600	920	600	350
(2) その他特別損失		200	41	9,863	9,543	500	7,648
(3) 臨時損失		0	0	0	0	0	0
当年度純利益/純損失		96,026	△354,383	△242,267	△149,955	△54,104	△152,715
前年度繰越利益剰余金/欠損金		△5,315,469	△5,556,006	△5,910,389	△5,910,389	△6,152,656	△6,050,944
その他未処分利益剰余金変動額							
当年度未処分利益剰余金/未処理欠損金		△5,219,443	△5,910,389	△6,152,656	△6,060,344	△6,206,760	△6,203,659

※端数については、四捨五入のため合計が合わない箇所があります。

※地方公営企業決算状況調査より。

2 若柳病院

(単位：千円)

区分	年度	H27年度		H28年度		H29年度	
		計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
1	医業収益	1,561,714	1,437,764	1,512,744	1,527,712	1,554,601	1,474,355
	(1) 入院収益	952,157	874,570	948,864	944,876	973,353	894,652
	(2) 外来収益	458,304	442,514	458,795	463,803	467,699	454,894
	(3) その他医業収益	55,262	55,264	39,461	53,409	40,163	51,423
	(4) 他会計負担金	95,991	65,416	65,624	65,624	73,386	73,386
2	医業費用	1,628,511	1,614,313	1,695,687	1,645,023	1,721,139	1,677,100
	(1) 給与費	811,596	823,385	843,605	833,478	865,209	859,577
	(2) 材料費	250,000	191,875	214,139	195,133	225,038	185,816
	(3) 経費	450,543	479,615	515,536	494,108	509,253	509,764
	(4) 減価償却費	113,212	112,701	118,059	118,056	117,650	117,632
	(5) 資産減耗費	1,619	4,834	1,612	1,782	1,441	1,587
	(6) 研究研修費	1,541	1,903	2,736	2,466	2,548	2,724
	医業損失／医業利益	△66,797	△176,549	△182,943	△117,311	△166,538	△202,745
3	医業外収益	168,634	197,226	284,636	286,350	267,227	270,165
	(1) 受取利息配当金	54	109	1,754	1,706	23	947
	(2) 他会計補助金	35,289	74,235	132,267	132,267	113,829	113,829
	(3) 補助金	8,553	1,533	1,228	1,361	1,228	1,340
	(4) 負担金交付金	121,883	114,398	144,079	144,078	146,654	146,810
	(5) 長期前受金戻入	0	3,817	3,211	3,323	2,883	2,884
	(6) その他医業外収益	2,855	3,134	2,097	3,615	2,610	4,355
	(7) 雑収益	0	0	0	0	0	0
4	医業外費用	96,870	110,343	111,821	105,540	108,177	103,319
	(1) 支払利息及び企業債取扱諸費	59,219	59,232	56,961	56,741	54,167	54,091
	(2) 繰延勘定償却	0	0	0	0	0	0
	(3) 長期前払消費税償却	8,251	8,251	8,251	8,251	8,251	8,251
	(4) 雑支出	29,400	42,860	46,609	40,548	45,759	40,977
	経常利益／経常損失	4,967	△89,666	△10,128	63,499	△7,488	△35,899
5	特別利益	0	0	0	0	0	0
	(1) その他特別利益	0	0	0	0	0	0
6	特別損失	457	456	780	1,213	780	3,079
	(1) 過年度損益修正損	451	456	680	1,213	680	3,077
	(2) その他特別損失	6	0	100	0	100	2
	(3) 臨時損失	0	0	0	0	0	0
	当年度純利益／純損失	4,510	△90,122	△10,908	62,286	△8,268	△38,978
	前年度繰越利益剰余金／欠損金	△122,129	△346,563	△436,685	△436,685	△447,593	△374,399
	その他未処分利益剰余金変動額						
	当年度未処分利益剰余金／未処理欠損金	△117,619	△436,685	△447,593	△374,399	△455,861	△413,377

※端数については、四捨五入のため合計が合わない箇所があります。

※地方公営企業決算状況調査より。

3 栗駒病院

(単位：千円)

区分	年度	H27年度		H28年度		H29年度	
		計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
1	医業収益	815,259	673,195	655,324	595,098	679,663	581,960
	(1) 入院収益	499,378	419,782	407,479	351,605	425,761	347,937
	(2) 外来収益	203,633	167,139	163,832	160,245	167,933	151,116
	(3) その他医業収益	28,662	22,142	21,474	20,709	23,051	19,989
	(4) 他会計負担金	83,586	64,132	62,539	62,539	62,918	62,918
2	医業費用	901,987	888,398	918,631	878,613	940,278	894,710
	(1) 給与費	503,524	480,209	507,279	482,243	516,977	473,749
	(2) 材料費	86,395	69,853	61,610	57,023	73,209	59,000
	(3) 経費	249,666	267,917	279,816	269,773	277,921	290,918
	(4) 減価償却費	60,477	68,245	65,483	65,479	69,664	69,614
	(5) 資産減耗費	684	1,260	2,601	2,894	782	646
	(6) 研究研修費	1,241	914	1,842	1,201	1,725	783
	医業損失／医業利益	△86,728	△215,203	△263,307	△283,515	△260,615	△312,750
3	医業外収益	167,429	193,913	211,931	213,165	212,662	213,482
	(1) 受取利息配当金	21	59	1,069	1,065	11	591
	(2) 他会計補助金	28,942	97,941	51,728	51,728	44,698	44,698
	(3) 補助金	0	0	0	0	0	0
	(4) 負担金交付金	129,680	88,484	153,614	153,614	163,182	163,279
	(5) 長期前受金戻入	0	3,166	2,796	2,820	3,296	3,298
	(6) その他医業外収益	8,786	4,263	2,724	3,938	1,475	1,616
	(7) 雑収益	0	0	0	0	0	0
4	医業外費用	35,117	42,224	46,662	43,562	42,926	40,281
	(1) 支払利息及び企業債取扱諸費	19,270	19,868	19,228	19,173	18,562	18,433
	(2) 繰延勘定償却	0	0	0	0	0	0
	(3) 長期前払消費税償却	3,999	3,999	3,999	3,999	3,999	3,999
	(4) 雑支出	11,848	18,357	23,435	20,390	20,365	17,849
	経常利益／経常損失	45,584	△63,514	△98,038	△113,912	△90,879	△139,549
5	特別利益	0	0	0	0	0	0
	(1) その他特別利益	0	0	0	0	0	0
6	特別損失	67	397	850	344	850	124
	(1) 過年度損益修正損	67	397	800	344	800	124
	(2) その他特別損失	0	0	50	0	50	0
	(3) 臨時損失	0	0	0	0	0	0
	当年度純利益／純損失	45,517	△63,911	△98,888	△114,256	△91,729	△139,673
	前年度繰越利益剰余金／欠損金	△22,553	△148,179	△212,090	△212,090	△310,978	△326,346
	その他未処分利益剰余金変動額						
	当年度未処分利益剰余金／未処理欠損金	22,964	△212,090	△310,978	△326,346	△402,707	△466,019

※端数については、四捨五入のため合計が合わない箇所があります。

※地方公営企業決算状況調査より。

別紙2 市立3病院経営指標

1 栗原中央病院の経営指標及び実績

経営指標項目		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
①病院機能評価	計画						
	実績	Ver. 6.0認定					
②1日平均入院患者数	計画	225.0人	235.0人	240.0人	197.0人	220.0人	
	実績	200.6人	195.4人	189.3人	189.3人	198.2人	
③1日平均外来患者数	計画	450.0人	450.0人	450.0人	375.0人	391.0人	
	実績	388.7人	387.2人	371.4人	364.8人	383.3人	
④紹介率	計画	—	—	—	—	—	
	実績	57.8%	60.7%	61.1%	60.5%	63.0%	
⑤逆紹介率	計画	—	—	—	—	—	
	実績	43.5%	52.3%	43.6%	44.3%	41.0%	
⑥医業収支比率	計画	92.4%	93.4%	94.5%	83.6%	87.0%	
	実績	84.8%	83.2%	83.2%	84.6%	85.1%	
⑦病床利用率	計画	75.0%	78.3%	80.0%	65.7%	73.3%	
	実績	66.9%	65.1%	63.1%	63.1%	66.1%	
内訳	一般病床	計画	74.2%	78.1%	80.0%	67.2%	74.0%
		実績	65.9%	64.4%	64.2%	66.3%	68.3%
	うち地域包括ケア病床	実績	—	—	55.8%	60.5%	66.3%
	療養病床	計画	80.0%	80.0%	80.0%	58.0%	70.0%
実績		72.9%	69.3%	57.4%	47.1%	55.1%	
⑧ 平均入院単価	計画	34,280円	34,280円	34,280円	36,512円	36,579円	
	実績	34,645円	34,635円	35,943円	36,769円	39,981円	
内訳	一般病床	計画	37,455円	37,455円	37,455円	39,957円	40,368円
		実績	37,576円	37,797円	39,445円	39,765円	44,152円
	うち地域包括ケア病床	実績	—	—	31,172円	30,917円	31,802円
	療養病床	計画	15,632円	15,632円	15,632円	16,554円	16,554円
実績		17,404円	16,794円	16,354円	15,672円	14,110円	
⑨平均外来単価	計画	8,280円	8,280円	8,280円	10,480円	10,480円	
	実績	9,801円	10,291円	10,779円	10,346円	10,291円	
⑩経常収支比率	計画	100.3%	101.1%	102.2%	95.3%	99.0%	
	実績	92.4%	92.3%	92.6%	97.1%	97.2%	
⑪平均在院日数 (一般病床)	計画	—	—	—	—	—	
	実績	16.2日	18.1日	17.2日	17.5日	14.9日	

※平均在院日数（一般病床）は、地域包括ケア病床（50床）を除いて算出した数値

2 若柳病院の経営指標及び実績

経営指標項目		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
①病院機能評価	計画						
	実績						
②1日平均入院患者数	計画	102.2人	102.2人	102.2人	90.0人	92.0人	
	実績	92.4人	85.5人	89.4人	93.0人	88.0人	
③1日平均外来患者数	計画	218.2人	218.2人	218.2人	197.0人	200.0人	
	実績	204.6人	200.7人	200.2人	196.4人	189.7人	
④紹介率	計画	—	—	—	—	—	
	実績	40.2%	44.3%	43.6%	42.7%	46.6%	
⑤逆紹介率	計画	—	—	—	—	—	
	実績	36.2%	40.5%	39.5%	38.0%	47.2%	
⑥医業収支比率	計画	95.8%	95.8%	95.9%	89.2%	90.3%	
	実績	90.1%	84.9%	89.1%	92.9%	87.9%	
⑦病床利用率	計画	85.2%	85.2%	85.2%	75.0%	76.7%	
	実績	77.0%	71.3%	74.6%	77.5%	73.3%	
内訳	一般病床	計画	83.3%	83.3%	83.3%	71.1%	73.3%
		実績	75.5%	67.1%	74.9%	74.6%	70.5%
	うち地域包括ケア病床	実績	—	—	—	—	—
		療養病床	計画	90.7%	90.7%	90.7%	86.7%
実績	81.6%	83.9%	73.5%	86.1%	81.7%		
⑧ 平均入院単価	計画	25,525円	25,525円	25,525円	28,885円	28,986円	
	実績	26,275円	25,490円	26,708円	27,847円	27,861円	
内訳	一般病床	計画	29,140円	29,140円	29,140円	33,546円	33,546円
		実績	30,933円	29,614円	30,268円	32,078円	32,397円
	うち地域包括ケア病床	実績	—	—	—	—	—
		療養病床	計画	15,557円	15,557円	15,557円	17,411円
実績	13,353円		15,597円	15,822円	16,844円	16,108円	
⑨平均外来単価	計画	8,573円	8,573円	8,573円	9,584円	9,584円	
	実績	8,767円	8,786円	9,098円	9,717円	9,830円	
⑩経常収支比率	計画	100.1%	100.1%	100.3%	99.4%	99.6%	
	実績	95.4%	90.8%	94.8%	103.6%	98.0%	
⑪平均在院日数 (一般病床)	計画	—	—	—	—	—	
	実績	20.8日	19.6日	19.2日	19.0日	19.4日	

3 栗駒病院の経営指標及び実績

経営指標項目		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
①病院機能評価	計画						
	実績						
②1日平均入院患者数	計画	64.6人	64.6人	64.6人	53.0人	56.0人	
	実績	60.3人	57.5人	55.3人	47.4人	47.2人	
③1日平均外来患者数	計画	134.6人	134.6人	134.6人	96.0人	98.0人	
	実績	114.3人	111.4人	102.6人	94.8人	87.2人	
④紹介率	計画	—	—	—	—	—	
	実績	25.7%	23.5%	26.3%	18.9%	19.6%	
⑤逆紹介率	計画	—	—	—	—	—	
	実績	15.6%	15.7%	32.3%	15.6%	15.9%	
⑥医業収支比率	計画	89.1%	89.6%	90.4%	71.3%	72.3%	
	実績	86.1%	77.9%	75.8%	67.7%	65.0%	
⑦病床利用率	計画	86.1%	86.1%	86.1%	70.7%	74.7%	
	実績	80.4%	76.6%	73.7%	63.2%	62.9%	
内訳	一般病床	計画	88.4%	88.4%	88.4%	68.9%	71.1%
		実績	79.6%	71.2%	72.2%	58.0%	53.9%
	うち地域包括ケア病床	実績	—	—	74.6%	34.8%	51.8%
		療養病床	計画	82.7%	82.7%	82.7%	73.3%
実績	81.5%		84.7%	75.9%	70.9%	76.3%	
⑧ 平均入院単価	計画	21,179円	21,179円	21,179円	21,064円	20,830円	
	実績	20,940円	20,750円	20,748円	20,329円	20,221円	
内訳	一般病床	計画	24,955円	24,955円	24,955円	25,913円	25,779円
		実績	24,981円	25,381円	25,023円	25,415円	25,967円
	うち地域包括ケア病床	実績	—	—	22,934円	23,300円	24,152円
		療養病床	計画	15,119円	15,119円	15,119円	14,231円
実績	15,021円		14,914円	14,651円	14,084円	14,126円	
⑨平均外来単価	計画	6,175円	6,175円	6,175円	7,023円	7,023円	
	実績	6,801円	6,785円	6,702円	6,959円	7,100円	
⑩経常収支比率	計画	103.3%	103.9%	104.9%	89.8%	90.8%	
	実績	99.5%	94.6%	93.2%	87.6%	85.1%	
⑪平均在院日数 (一般病床)	計画	—	—	—	—	—	
	実績	19.9日	19.0日	19.9日	20.1日	18.0日	

※平均在院日数（一般病床）は、地域包括ケア病床（8床）を除いて算出した数値

栗原市立病院経営評価委員会委員

任期：（平成31年3月31日まで）

No	所 属	役職名	氏 名	備 考
1	山形市病院事業	管理者	平 川 秀 紀	○委員長 (山形県)
2	みやぎ県南中核病院	病院長	内 藤 広 郎	(大河原町)
3	栗原市医師会	会 長	宮城島 堅	(栗原市)
4	石巻赤十字病院	事務部長	後 藤 孝 浩	(石巻市)
5	(公社) 宮城県看護協会	会 長	佃 祥 子	(仙台市)
6	宮城県総務部	参事兼 市町村課長	伊 藤 正 弘	(仙台市)
7	矢川昌宏公認会計士事務所	代 表	矢 川 昌 宏	(石巻市)
8	栗原市企業連絡協議会	会 長	小 山 信 康	(栗原市)

(敬称略)

栗原市立病院経営評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 栗原市病院事業経営健全化計画（以下「計画」という。）に基づく取組状況、計画の見直し等に関する事項及び市立病院事業の経営全般について評価、検討等を実施し、市立病院事業の経営健全化等を図ることを目的として栗原市立病院経営評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 計画に基づく取組状況、計画の見直し等に関すること。
- (2) 市立病院の経営全般について評価、検討等を実施すること。
- (3) その他病院事業管理者が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員10人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、病院事業管理者が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 医療関係者
- (3) その他病院事業管理者が必要と認める者

3 委員の任期は3年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に、委員長及び副委員長を置き、委員の互選により選任する。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 委員会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取等)

第6条 委員会は、必要があると認めるときは、議事に係る関係者又は専門家に対し、出席を求めて意見若しくは説明を聴き、又は必要な書類の提出を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、医療局医療管理課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、平成20年12月 1日から施行する。

平成24年 7月 1日 一部改正

(会議の招集の特例)

2 この告示の施行後、最初に開かれる会議は、第5条第1項の規定にかかわらず、病院事業管理者が招集する。

栗原市病院事業 医療局 医療管理課

〒987-2205

宮城県栗原市築館宮野中央三丁目1番地1

TEL 0228-21-5631 FAX 0228-21-5632

メールアドレス medical@kuriharacity.jp